

演奏会に向けて練習に励む小樽商科大学グリークラブ札幌OB会やグリー&カンタール、
Re:ユンゲンのメンバーたち



記念の合唱 小樽へ届ける

樽商大OB会×学生あす演奏会

男声合唱「小樽商科大学グリークラブ札幌OB会」と同大の現役学生でつくる混声合唱「グリー&カンタール」が13日午後2時から、初の合同演奏会を小樽市民センター・マリンホール（色内2）で開く。新型コロナウイルス禍で、3年前に小樽での開催を見送った創部100周年記念演奏会に代わる企画。同会は「小樽の合唱文化を盛り上げたい」と来場を呼びかけている。

同グリークラブは、同大の前身、小樽高等商業学校時代の1920年（大正9年）に音楽部として発足し59年に改称。2014年に女声合唱と一緒に、グリー&カンタールとして活動する。同会は40〜70代の約30人、グリー&カンタールは12人が所属する。同会は、創部100周年記念演奏会を当初の20年から延期し、22年11月に小樽と札幌で計画した。

同大が、新型コロナウイルスの影響で開催は札幌だけとなった。メンバーの中で学生時代を過ごした小樽で公演したいとの思いが募り、現役の学生にも演奏会の自主開催を経験させたいと2年前から準備した。

同会による小樽での公演は14年ぶり、学生は19年ぶりになるという。

当日は、同会が小樽商大卒業生で小樽ゆかりの作家伊藤整の詩集「雪明

「創部100年」代替企画「文化盛り上げたい」

りの路」を題材にした創部60周年記念の委嘱作品「吹雪の街を」（多田武彦さん作曲）や、同100周年記念の同「山にきた雪」（松下耕さん作曲）などを披露し、グリー&カンタールは「春が来たなら」を合唱。小樽の混声合唱「Re:ユンゲン」が賛助出演する。

同会はこの3カ月、週1回ペースで練習。合同練習を11月下旬に2回、市公会堂で行った。同会の牧野泰充会長（72）は「練習成果やこれまでの経験を発揮し、学生時代を思い出しながら歌い上げたい」と意気込む。

入場料800円。問い合わせは同会事務局の久保田さん、電話090・8110・3718へ。

（熊谷知喜）